

平成 29 年度第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立米子高等学校

校長 田 中 宏

評 価 日	平成 30 年 1 月 20 日 (土)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<p>1 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p>① 確かな学力の育成 [授業改善について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの文化祭 in Yonago」を参観し、ICT 活用・生徒の主体的活動について教員ベクトルが揃っており、授業改善に意欲を感じた。 <p>② 豊かな人間性の育成 [問題行動ゼロについて]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動ゼロは達成できずとも生徒は落ち着いており、遅刻も減少し評価できる。C 評価でなくてもよいのではと思った。 <p>③ 自己実現のための進路指導の充実 [産業社会と人間・プレテーマ学習・テーマ学習について] (学習成果発表会を参観して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年次より将来のビジョンを持ってキャリアデザイン教育が実践され、総合学科の特色がよく出ている。 ・プレゼン形式が定着し整ってきている。 ・仮説を立て論理立てて思考していく学びは今後必要なスキルであり、教師の指導の成果を感じた。 ・3 年次の課題研究は 1、2 年の継続が見えなくなっており、進路について考える方がよい。卒業生を呼び、現在の状況を発表する取り組みをしてはどうか。 <p>[進路希望の実現について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は島根大学・香川大学・公立鳥取環境大学・長崎県立大学等の国公立をはじめとし、既に 4 年制大学進学者数が過去最高であり高く評価したい。 <p>④ 地域との連携による学校づくり [地域連携による文部科学大臣表彰について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表彰は米子高校の取り組みの成果であり、高く評価する。 <p>[高校生出前キャリアガイダンスについて]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生のモデルとなる素晴らしい取り組みであり、是非継続してほしい。 <p>(2) 説明・公表について [保護者アンケートについて]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大旨高評価であり、教育目標の実践がなされていると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット使用者がまだ少ないと感じている。 ・中間評価であることでこの評価にした。 ・3 年の課題研究は RESAS (地域経済分析システム) を活用し、バージョンアップを図った。卒業生発表については検討したい。 ・今後、国公立を含め 4 年制大学進学者数が増加する見込みである。生徒、教員ともによく頑張った。 ・全国で唯一の高校表彰校であり、地域の皆様のおかげである。 ・新しい取り組みとして 8 校に実施し、好評を得た。継続拡大する。 ・昨年度の校舎が汚いという意見がなくなったが、掃除の徹底は更に推進していく。 	

評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<p>2 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算執行も着実に進められており、未執行の事業についても詳細に予定されており問題ない。 <p>3 取組改善のための提言 [平成30年度県立学校裁量予算について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の学校独自事業の廃止、拡大、新規等の精選がなされており、新規事業に期待したい。 <p>[自転車通学生ヘルメット着用推進運動の概要について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通死亡事故も発生しており、高校生にもヘルメット着用を推進すべきであり、希望者から着用させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未執行の事業について確実に実施していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 独自事業確定においては、働き方改革としてブレインライティング方式で決定した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県からの補助がないので、ヘルメットの斡旋販売はしないが、PTAが助成するのであれば、検討したい。県内の先駆的取り組みであり、「ヘルメットをなるべく着用する」よう指導していく。